



感染禍で心と社会を守るために

心理学者から見た感染禍

三浦 麻子(人間科学研究科)



首都圏・A保健所長からのメール

(2020.12.5付・許可を得て引用)



酷い状況です。

高齢者の運転みたいです。
ブレーキを踏むときに、
ブレーキではなくアクセルを踏む！
もう限界ですよ。

大阪も凄まじいですね。
2ヶ月前、遅くとも1ヶ月前には
ドラスティックな手を打つべきでした。
国民の行動変容に頼る施策は完全に行き詰まっています。
医療中心がトップではなく、経済中心がトップでは、、、

病床を増やす？人は増えない！
不可能なことを平気で言う国や都道府県、、、
太平洋戦争の頃と何ら変わってない、、、

どうかしてますよ！

心理学の先生方も、

人は論理的に正しくても
それをくんで理性的に行動するわけではない。
精緻化見込みモデル、ヒューリスティック、
楽観性バイアス、認知的不協和、、、

このような理論で訴えるべきです。



感染禍における心と社会の現状

心理学者から見た感染禍

三浦 麻子(人間科学研究科)

タイトルを変えました





心理学とはいかなる学問か

- 心理学とは、人間のさまざまなふるまいの原因として**心**の働きを仮定し、それを対象とする実証科学である
- **心**は直接見えないので、その働きが原因となってどのような結果が生じるかを推論するために**行動**に手がかりを求め、実証のための証拠を集める
- 典型的には、ある**行動**の原因となる**心**の働きを仮定し、その有無や程度を人為的に操作した上で**行動**に関するデータを収集・分析することで、両者の因果関係を明らかにする

心理学実験

Psychological experiment



心理学者から見た感染禍

The Covid-19 Global Pandemic: A Natural Experiment in the Making

David M. Mutch^a

^aDepartment of Human Health and Nutritional Sciences, University of Guelph, Guelph, ON, Canada

As news began to emerge from China in late 2019 of a new infectious respiratory disease, nobody realized that we were about to be enrolled into a global natural experiment. To paraphrase Craig et al. [1], a natural experiment describes an event or intervention not under the control

tween people. But, in the short-term, research that elucidates how the virus spreads, how it infects a person, and what factors can modify the severity of infection will all aid in the development of effective vaccines.

At the time of writing, over half a million people had

<https://www.karger.com/Article/FullText/510217>

Circulation

Volume 142, Issue 1, 7 July 2020, Pages 14-16
<https://doi.org/10.1161/CIRCULATIONAHA.120.047538>



PERSPECTIVE

The COVID-19 Pandemic

A Global Natural Experiment

Blake Thomson, DPhil

Over the past several months, the coronavirus disease 2019 (COVID-19) outbreak has rapidly grown to become a global pandemic. Countries, regions, and localities have taken varied and, in many cases, drastic approaches to limit the impact of COVID-19. Governments across the world have issued stay-at-home orders to all of those who are not essential to the conduct of everyday life. Routines have been radically disrupted, with global society undergoing tremendous changes in a very short period of time. Some disruptions may last months, even years. Others

<https://www.ahajournals.org/doi/10.1161/CIRCULATIONAHA.120.047538>

A Huge Covid-19 Natural Experiment Is Underway—in Classrooms

As K-12 students head back to school, epidemiologists are watching for clues about how kids spread the virus, and what can stop it.



<https://www.wired.com/story/a-huge-covid-19-natural-experiment-is-underway-in-classrooms/>

自然実験 Natural experiment

研究者が意図して参加者を集めたり、人為的に原因を操作したりするのではなく、実社会に自然に生じた現象を観察することによって因果関係を検証したり、ある原因の有無や程度が結果に及ぼす影響を比較したりする研究法



フレーミング効果

「利得(生)」と「損失(死)」のどちらに
注目させるかで選択が異なる

Problem 1 [$N = 152$]: Imagine that the U.S. is preparing for the outbreak of an unusual Asian disease, which is expected to kill 600 people. Two alternative programs to combat the disease have been proposed. Assume that the exact scientific estimate of the consequences of the programs are as follows:

If Program A is adopted, 200 people will be saved.

If Program B is adopted, there is 1/3 probability that 600 people will be saved, and 2/3 probability that no people will be saved.

Which of the two programs would you favor?

A second group of respondents was given the cover story of problem 1 with a different formulation of the programs, as follows:

Problem 2 [$N = 155$]:

If Program C is adopted 400 people will die.

If Program D is adopted there is 1/3 probability that nobody will die, and 2/3 probability that 600 people will die.

Which of the two programs would you favor?

A 72%

B 28%

A = C

B = D

C 22%

D 78%

問題1: 米国で強力なアジア風邪が大流行し、600人が死亡すると予想される。

これに対抗するべく提案された方策は2つであり、それぞれの方策の結果は科学的に以下のように見積もられている

A: 200人が助かる

B: 1/3の確率で600人全員が助かり、
2/3の確率で誰も助からない

2つの方策のうちどちらを支持するか？

問題2: 問題1と同様の設定で、

C: 400人が死ぬ

D: 1/3の確率で誰も死なずにすみ、
2/3の確率で600人全員が死ぬ

2つの方策のうちどちらを支持するか？



心理学研究からわかっていること

• 認知バイアス

- 論理的に正しくてもそれをくんで理性的に行動するわけではない
 - 精緻化見込みモデル: 良く知っていること・やる気のある時しか熟慮しない
 - ヒューリスティック: 熟慮する気や時間がない時は適当そうな選択肢を適当に選ぶ
 - 楽観性バイアス: 危機を認識していたとしても自分は大丈夫だろうと思う
 - 認知的不協和: 心の中の矛盾を解消するためにご都合主義で態度を変える
- バイアスの程度には個人差がある. さらに, 状況の影響を強く受ける

• 社会的現実

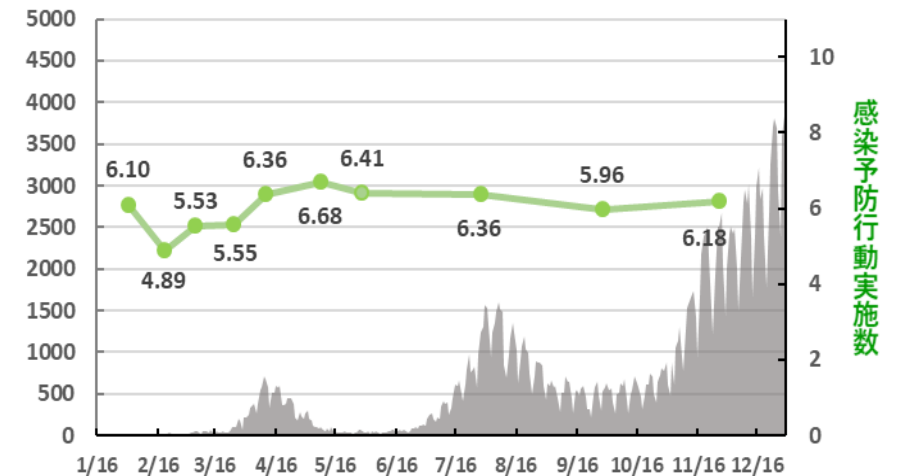
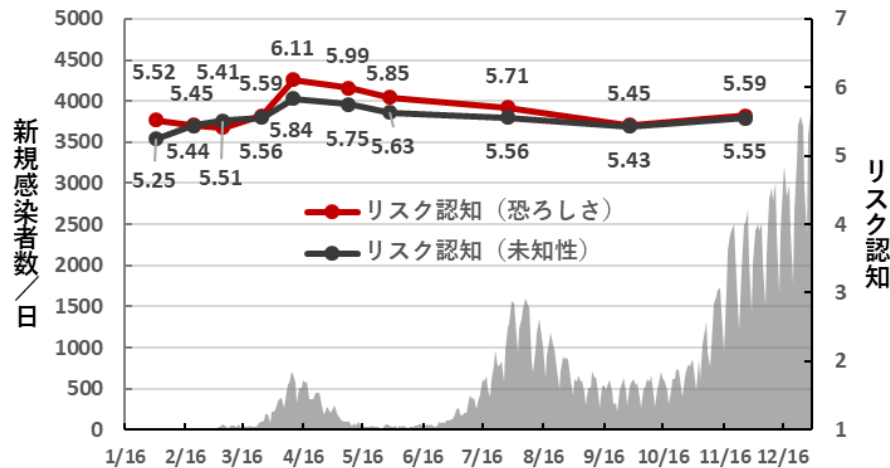
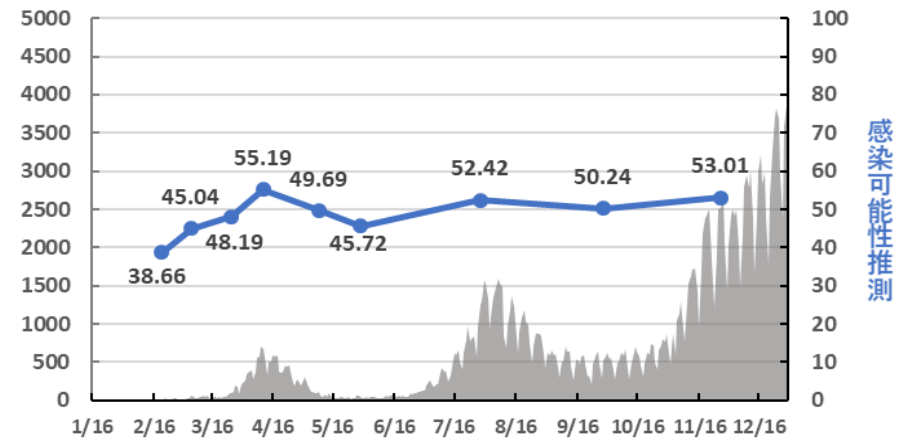
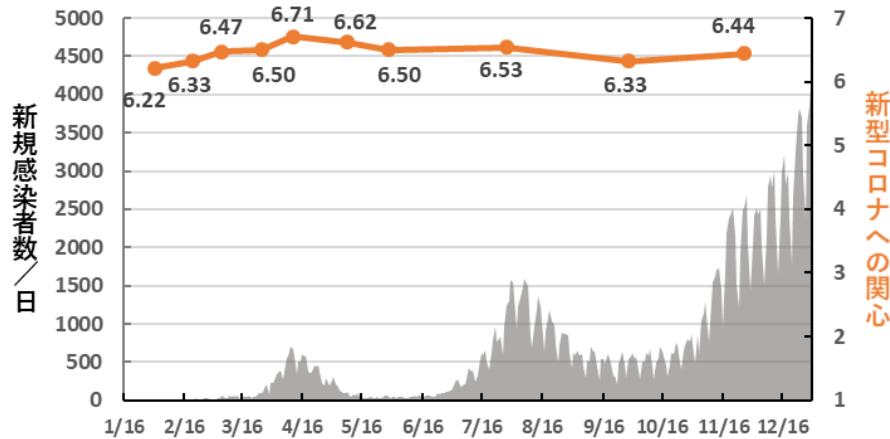
- 私たちが「現実」だと認識しているもの
- 事実とは異なり, 唯一不変ではない
 - 認知バイアスという色眼鏡を通して見える現実は事実とは異なり, また, その異なり方は人/状況により多様である

人間の進化・適応の産物, つまり「人間らしさ」
こうした「機能」を獲得したがゆえに人類はサバイバルできた



2020年1月末以来の人心の推移

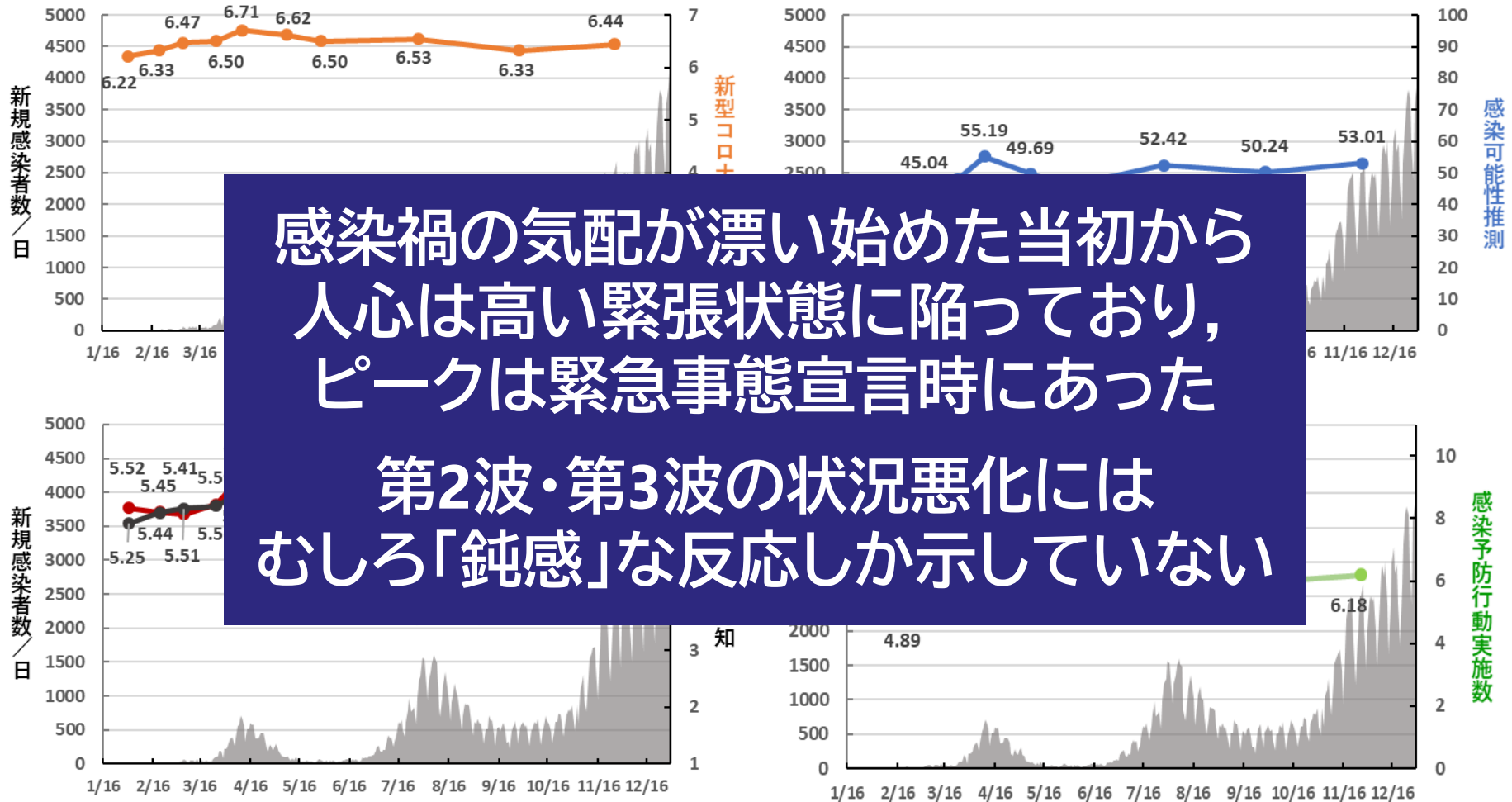
一般市民1200名を対象としたWeb調査





2020年1月末以来の人心の推移

一般市民1200名を対象としたWeb調査



「日常、戻りますように」名古屋・熱田神宮で初詣 分散参拝の呼び掛けも

2021年1月1日 01時21分 (1月1日 02時59分更新) | 会員限定



新年を迎え、手を合わせる参拝客ら＝1日午前0時、名古屋市熱田区の熱田神宮で

<https://www.chunichi.co.jp/article/179352?rct=aichi>

脅威への馴化

事実としては当初と同じ/より強い
脅威があったとしても、
長期間さらされ続けるうちに、
伸びきったゴムが緩むような
行動が生じることもある

新型コロナウイルスの感染拡大が収束をみせないまま2021年を迎えた1日未明、名古屋市熱田区の熱田神宮には、マスク姿の家族連れや若者らが初詣に訪れた。混雑は例年ほどではなかったが、拝殿前では午前0時前にカウントダウン。人が密集して混雑し、警察官らが密を避けるよう呼び掛ける場面もあった。

箱根駅伝ほとんどの区間で沿道に人 警備スタッフ「公道使う以上…」応援自粛求めるも

「箱根駅伝・往路」（2日、大手町～神奈川県箱根町芦ノ湖駐車場）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「応援したいから、応援にいかない。」を掲げた今大会。例年多くの観衆が集まる大手町のスタート地点は、規制も敷かれ、ファンの姿はまばらだった。

警察官、警備員が注意の看板をぶら下げながら周回し、緊張感と静けさが漂う中でのスタートとなった。ただ、規制が可能なスタート、ゴール地点を除くと、ほとんど区間で沿道には人が連なった。

ある警備スタッフは「例年に比べると格段に人は少ないけど、公道を使う以上限界がある」と、頭を抱えた。



<https://www.daily.co.jp/general/2021/01/02/0013980099.shtml>

「日常、戻りますように」名古屋・熱田神宮で初詣 分散参拝の呼び掛けも

2021年1月1日 01時21分 (1月1日 02時59分更新) | 会員限定



新年を迎え、手を合わせる参拝客ら＝1日午前0時、名古屋市熱田区の熱田神宮で

<https://www.chunichi.co.jp/article/179352?rct=aichi>

こうした行動レベルの差は常に少なからずある。しかし普段はあまり気にする必要がない。

行動の斉一性を維持する必要性が高い状況だからこそ、斉一ではないことが前景化する。

新型コロナウイルスの感染拡大が収束をみせないまま2021年を迎えた1日未明、名古屋市熱田区の熱田神宮には、マスク姿の家族連れや若者らが初詣に訪れた。混雑は例年ほどではなかったが、拝殿前では午前0時前にカウントダウン。人が密集して混雑し、警察官らが密を避けるよう呼び掛ける場面もあった。

箱根駅伝ほとんどの区間で沿道に人 警備スタッフ「公道使う以上…」応援自粛求めるも

「箱根駅伝・往路」（2日、大手町～神奈川県箱根町芦ノ湖駐車場）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「応援したいから、応援にいかない。」を掲げた今大会。例年多くの観衆が集まる大手町のスタート地点は、規制も敷かれ、ファンの姿はまばらだった。

警察官、警備員が注意の看板をぶら下げながら周回し、緊張感と静けさが漂う中でのスタートとなった。ただ、規制が可能なスタート、ゴール地点を除くと、ほとんど区間で沿道には人が連なった。

ある警備スタッフは「例年に比べると格段に人は少ないけど、公道を使う以上限界がある」と、頭を抱えた。



<https://www.daily.co.jp/general/2021/01/02/0013980099.shtml>



感染禍における心と社会の現状

- 感染を拡大させないために、われわれは状況を冷静に観察すべきだし、パニックにならないよう理性的に行動すべきである
- しかし、感染禍当初に極度に上昇した人心の緊張状態には、その後の感染者数増加による「伸びしろ」はない
 - 行動変容を持続している人もいれば、馴化して元の行動に戻りつつある人もいる、という差異が際立ち、軋轢を引き起こしている
 - 心理学がこれまでに数々の(非自然)実験で明らかにしてきた心の働きとその結果としての行動を見る限り、人間は常に「合理」的でいられるわけではなく、時にそれから大きく逸脱した行動をする。時に誰かが「信じられない」ことを他の誰かがするのがむしろ「人間らしさ」である
- 政府や自治体による「要請」は、冷静さや理性にもとづく個人の努力を前提とした上で、さらにその周囲への普及(≡同調圧力)を市民に期待するものであり、持続的な強い効果がないのは当然
 - しかもリーダー足るべき人々に率先垂範のふるまいがなく、あるいは要請と矛盾するメッセージも同時に発信されている